

保育・幼児・教育施設ではたらく先生方への「エール」



現場の状況を聞けば聞くほど、悪化の一途をたどっています。保育現場から子どもたちの姿が次第に消え、来ている子どもの遊び方も変わり、先生方の心には「不安」が募っていく毎日。これまでに誰もが体験したことのない保育現場。

家庭環境も激変しています。長い時間、子どもと一緒にいることが「ストレス」と感じるようになる親もいるでしょう。親の「不安」は「間主観」的に子どもにも伝播します。

こんな時だから、大人たちは子どもたちの前で笑顔で遊んでみましょう。こんな時だからこそ、「他愛ないこと」を一緒にしてみましょう。そんな大人の姿が、「おとうさんもお母さんのそばにいるから、安心だよ」というメッセージになります。そして、「まだまだ だいじょうぶ」と、困難と一緒に乗り越えようという「連帯感」も生まれるでしょう。子どもが遊んで笑顔になることは、大人たちの生きる希望につながっていくでしょう。

早川たかしからの提案

- ① 皿回しやけん玉の練習をして腕を上げましょう！（子どものいない所でこっそり）
※集中して無心で遊ぶことは「マインドフルネス」になります。
- ② 子どもと先生（親）が対一（『一緒』）で皿回しやけん玉で楽しみましょう！
※『全員一緒』が無理でも、これならできる。ほめ方や喜び方は手話風に工夫??
- ③ 大人自身が、孤独な？個独な？趣味や遊びの世界を見つけ出す。
※コロナ情報から離れる時間を作り、自己の精神衛生を保ち、新しい自己の発見

最後に、「子どもの主食は遊びです」（日本小児科医会）にあるように、**こどもの生きる力の「源」は「遊び」です。**今こそ子どもに必要なのは「机に座って学習させる」こと（だけ）ではありません。この困難な時期に子どもに必要なのは、「遊び保障」です。大人はこのことを肝に命じたいものです。